



鶏 鳴

けいめい

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『わたしは今日も明日 次の日も
自分の道を進まねばならない』
聖書(ルカ福音書13章33節)
牧師 河合裕志

かねてイエスに敵対しているファリサイ派の人々が近寄って来てイエスに言った。「ここを立ち去ってください。ヘロデ(アンティパス)があなたを殺そうとしています」。ヘロデならやりそうなこと。先に洗礼者ヨハネの首をはねている。今度はあんたの番ですよ、そう言って忠告してくれた。これはしかし忠告より退去勧告だろう。彼らにとってイエスは目の上のたんこぶ、当地にいて欲しくなかった。

イエスは言った。『行って、あの孤に、「今日も明日も、悪霊を追い出し、病気をいやし、三日目にすべてを終える」とわたしが言ったと伝えなさい』。

時の権力者に向って、あの孤、と言っている。これはイエスでなくてはとも言えない。イエスには神の他、恐れる者は何もなかった。そしてイエスに続く弟子達の強さもそこにある。あのずる賢い、どう猛な孤のようなヘロデに伝えよ。わたしは何を言われようと悪霊を追い出し、病気治療のわざをやめるわけには行かないがしかし三日目にはすべてを終える。この三日目は間もなくということ、また十字架につけられ三日目に復活することも意味しているかも。

更にイエスは続けた。『わたしは今日も明日もその次の日も自分の道を進まねばならない』。自分の道を進む、わが道を行く。それはエルサレムに通じる道、前方に十字架の待っている道。普通なら避けたい道、ずらかりたい道。

それなのにそれを止めない。何故、何故。そこには強烈な使命感があった。『人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである』(マルコ10・45)。人の子・わたしは自分の命を献げるためにこの世界に来た。自分が十字架につけられ犠牲となることによって人類に罪の赦しと永遠の命がもたらされる。このような大きな自覚に立ってイエスは自分の道を進んで行った。右にも左にもそれることなく。私達にもそれぞれに「自分の道」がある。なんらかの仕事をしている人、それが当面自分の道になる。仕事を通し自分を養い家族を養う。社会の役にも立っている。これが神から与えられた使命というもの。すでに職を離れている人もボランティアや人のために祈るといった使命が与えられている。また信仰者には天国に通じる道を進んで行くこと、これは使命というより喜びの道。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時